

『「但馬夢シナリオ」地域づくり活動応援事業』

地域団体の活性化や地域社会の共同利益実現に向けた活動を支援する。地域ビジョンが目指す将来像を地域全体で共有するため、平成24年度から実践を通じて行う地域づくり活動を支援します。

(今年度まで「地域づくり活動応援事業」として実施してきた助成事業を)

募集は終了しました

対象事業は??

「但馬夢シナリオ」に基づいて実施する事業のうち、但馬の祭典20周年(～出会い・感動～夢但馬2014)の趣旨を踏まえて取り組む、地域の活性化に資する事業や地域団体の創意工夫による地域特性を生かした事業です。

助成金を受けるには??

指定の申請書に必要事項(事業概要等)を記載し提出していただきます。その後、書類審査、プレゼンテーション審査を経て、審査結果を基に助成金額を決定します。

詳しい内容は新年度に入り次第、あらためて発表いたします。皆様の積極的なご応募をお待ちしております。



こころ豊かな美しい但馬推進会議
〒668-0025 豊岡市幸町7-11
但馬県民局県民協働室県民運動課内
TEL 0796-26-3647 FAX 0796-24-7074 まで

詳しくは

但馬夢テーブル委員会の第6期がスタートします!!

平成24年4月1日から、新しく公募した委員による第6期但馬夢テーブル委員会がスタートします。

第6期但馬夢テーブル委員の方々には、平成23年9月に改訂版が策定された「但馬地域ビジョン(バージョン2)」に基づき、確かな未来「あしたのふるさと但馬」の実現に向け、実践活動の展開やビジョンの普及啓発活動などを担っていただきます。

具体的には以下のような取組を中心として活動を展開します。

1 但馬の祭典20周年事業(事業名称:～出会い・感動～夢但馬2014)を見据えた各種活動の自主的な企画・実践

【参考:第5期の活動例】

- ・但馬の食について知る・知らせる・共に考える活動
- ・頑張る若者の発掘と活動の場づくり
- ・古民家の再評価と活用検討、地域防災を考える活動など

2 但馬の地域資源、強み、誇りなどを掘りおこし、但馬の地域力や但馬の魅力をわかりやすく伝えることのできる地域力指標の作成

3 ビジョンが目指す方向や将来像など、地域全体でビジョンを共有するための普及啓発活動

ビジョンは地域の方々の主体的な取組があってこそ実現するものです。

第6期の但馬夢テーブル委員会もビジョン実現に向けて、元気にスタートします。

これからも但馬夢テーブル委員会の取組にご協力よろしくお願いたします。

但馬夢テーブル委員会に関するお問い合わせは下記までご連絡ください

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町7-11 但馬県民局内 但馬夢テーブル委員会事務局(県民協働室ビジョン課)
TEL:0796-26-3615 FAX:0796-24-7074
URL:<http://web.pref.hyogo.lg.jp/area/tajima/vision.html>

第20号
2012.3

たじま 夢つうしん



但馬パープルネット出前講演会 ～介護老人保健施設「ゆうすげ」にて～



但馬の「食」再発見グループ 食育講演会

目次

第5期を振り返って(委員長・副委員長).....	2
第5期の各グループの活動.....	3
但馬の「食」再発見グループ	
森・川・海の循環グループ	
但馬の民家探訪グループ.....	4
小規模集落元気村プロジェクト	
夢ある田舎暮らし応援隊.....	5
ゆめ防災福祉グループ	
次世代ネットグループ.....	6
但馬パープルネット	
但馬の自慢話発信隊.....	7
「但馬夢シナリオ」を公表しました!.....	7
「但馬夢シナリオ」地域づくり活動応援事業.....	8
但馬夢テーブル委員会の第6期がスタートします!!	

第5期但馬夢テーブル委員会を振り返って

但馬地域ビジョン(バージョン2)が平成21年度から足掛け6年、但馬地域夢会議、兵庫みらいフォーラム及びパブリックコメント等様々なフォローアップの機会を経て多くの皆様の貴重なご意見を承り、昨年9月に策定された。

ビジョンのテーマは、確かな未来「あしたのふるさと但馬」である。改訂版のビジョンはあしたのふるさと但馬を見据えた夢のあるビジョンである。その中にはビジョンの取り組みを具現化し確認する場、機会とするシンボルプロジェクトがあり、特に印象に残っている。

それは、ビジョンの原点が平成6年に開催された「但馬・理想の都の祭典」であるとの認識から、祭典の20周年にあたる平成26年に記念イベントを開催し、これを一つの契機として但馬の人々が心を一つに、再び多くの交流人を迎えて一大ムーブメントを起こしたいとの願いから「但馬・理想の都の祭典20周年事業」を私たち但馬夢テーブル委員会が井戸知事に提案した経緯があるからである。バージョン2では、このほかに「但馬力強化大作戦」、「但馬夢シナリオプロジェクト」がシンボルプロジェクトとして位置付けられている。

いよいよ、第5期の任期も残すところ後わずかである。全県ビジョン、地域ビジョン見直しの大切なこの時期に第5期委員長の大役を仰せつかり、この上ない貴重な体験をさせていただいた。

これも偏に委員の先輩諸氏をはじめ、地域づくりに地道な努力を惜しまない但馬各地の皆さん、生まれ育ったこの但馬に誇りを持つ高校生をはじめとする若者たち、枚挙に暇がないほど多くの皆様方のご理解とご協力の賜物とあらためて感謝している今日この頃である。



第5期委員長
藤原 進之助



第5期を振り返って

副委員長 久保 千賀子

初めて参加した初顔合わせの日、年齢、性別、業種、地域もバラバラの委員が一堂に会した時、これから本当に続けていけるのか不安な状態でした。ましてや、グループに分かれて活動するとなれば、色々な課題が頭を廻り前向きな思いでスタートした訳ではありませんでした。

4・5期の5年間を振り返ってみると、食育の視点から農業や料理教室、生き物調査、紙芝居の発行、食のすぐろく・旬のカレンダー、うちげえのごっつおうコンテスト・レシピ集作りなど様々なことができました。決して一人では成し遂げることはできませんでしたし、簡単な活動ではなかったのですが、世代を超えた仲間との出逢いにより実現しました。

活動では、子ども達の「美味しい♪」と笑顔で言ってくれたこと、新たな繋がりや広がり、他地域の団体との出逢いもありました。イベント準備は大変でしたが、終われば普通の生活を送っているだけでは得られないような達成感や満足感を味わうことができました。委員会活動は、余分な事かもしれませんが、人生を有意義に過ごすためには良い意味でのスパイスになり生き甲斐にもなりました。

皆様のお陰で、無事に終わることができ感謝しております。本当にありがとうございました。



第5期の活動を通じて

副委員長 宮垣 健生

第5期の活動を通じた一番の収穫は、「但馬には、場所や世代を問わず、アツイ思いを持った方が沢山おられるなあ」という実感を持つことが出来たことです。活動を通じて、多くのユニークで面白い方たちと出会うことが出来ました。

また、従来は、「但馬の中の自分の住む町」という視点でものごとを考えていたのですが、「兵庫県の中の但馬。その中の自分の住む町」という視点で、兵庫県をより身近に感じる事ができるようになったとも思います。

「TSUBOMI本舗」という大ヒットした事業に、スタッフとして関わったことも有意義でした。運営者も出店者も来訪者もみな満足し、一定の成果をあげることができる事業はなかなか無いので、そういう事業に参画でき、とても楽しかったです。

地域の多くの方々に支えていただきながら、委員の皆さまと5期の活動を全うすることが出来たこと、本当に感謝しております。

引き続き、皆さまが夫々の持ち場で、ご自身のために、地域のために、そして、未来のために、夢の実現に向け邁進されていくことを祈念申し上げます。私も負けぬように頑張ります。ありがとうございました。

第5期の各グループの活動

第5期の活動を振り返って

私達「但馬の「食」再発見グループ」では「食のスゴロク」「うちげえのごっつおうレシピコンテスト」「うちげえのごっつおうレシピ集&講演会」取り組むことができました。グループとしては文字通り、多くの方に「食」の観点か



但馬の「食」再発見グループ リーダー 鈴木 千佳

ら但馬を再発見してもらえたのではないかと思います。私にとっては、この3年間の活動はつらいと思うこともありました。ですが、それ以上に得るものが大きく成長させてもらったなと感じています。振り返るとたくさんの素晴らしい出会いがあり、たくさんの方と一緒に活動できたことは、楽しく、とても勉強になりました。

特に、グループメンバーの皆さんと毎晩深夜まで、事業を創り上げたこと、そして時には美味しいものを食べながら談話したことは、とても良い思い出です。

また、活動を通じて、事務局をはじめ多くの方にお世話になりました。ありがとうございました。

最後に、夢テーブル委員会の良さは世代の違う人たちが同じ志の下、一緒に考え行動できることだと思います。第6期も、様々な人たちが思いをぶつけ合い歩み寄り、但馬を元気づける、たくさんのイベント、作品が生まれることを期待しています。

「森・川・海の循環」3年間を振り返って

森・川・海の循環グループ リーダー 杉山 隆一

この3年間決して満足のいく活動が出来ませんでしたが、グループの皆さんや県民局の事務局の皆さんのご協力をいただき、何とか事業をこなすことが出来ました。

思い出深い活動といえば、平成22年12月に行った「日高・蘇武岳ふもとの山登り」です。森の自然、人の入らない山が荒れていることや、人が住んでいたという廃村を見て驚き、それでも川の源流の清流が清いこと。樹齢を重ねた大かつらを現実に見たことは、大変貴重な体験でした。

次に、昨年23年11月に行った「円山川カッター自然体験ツアー」では自力で漕ぐには少々きつい運動でしたが、川の中から見る河口の自然、城崎温泉の町の風景はこれまで見る事が出来なかった感動を覚えたものでした。

最後に、今年2月に行った、上山高原冬山かんじきハイキングもしんどい思いをしたのですが、但馬の冬山の雄大さときれいな風景には感動しました。さらに海上地区の地元の方から手料理のもてなしを受け感謝して、よい思い出が残りました。

私たちの、但馬の自然の現状を見つめなおす機会にと行った調査、活動が、但馬自慢話発信隊グループの活動にも通ずるものがあるよう



まだまだ有ります但馬が誇れる『古民家』が

5期3年間、多くの家屋を楽しく見学させていただきましました。養父市内にある、先祖が平家に遡る築300年以上、当時の歴史を残した古民家、豊岡市内にある、高石垣で囲まれた規模の大きな民家、この対照的な2軒を最後に終了となりそうです。

グループでは但馬内有数の民家を中心に探訪し、また、出石諸杉神社事務所などの忠実に復元された建築物等

但馬の民家探訪グループ リーダー 吉田 順一

も研修させていただきました。私たちの先輩の記録を含めてもまだまだ多くの対象となる民家が残っていると思いますが、終盤、一部方向を変えることにしました。それは但馬が誇れるもの「県内長寿一番」ということです。

長寿は但馬の民家が関係しているのではないかと、ということで、結果、但馬の文化生活を支えてきたごく普通の民家も対象にすることが大事だということになりました。また、それに伴い、住民の方の記憶も対象になったわけです。昔の生活が語れる人、また、そんな古民家を持った但馬人が一人でも多くおられるうちに充実した記録を残すことができればと思っております。

そんなことを考えながら今期は終了することになりますが、同じ考えを6期につなぐことができ、より大きく膨らませてもらうことができれば幸いです。

快く見せていただいた民家の方、参加していただいた皆さま、5期のメンバーの皆さんありがとうございました。

また、但馬の祭典20周年事業の中で、但馬を知ってもらう一部門に記録等が役立つことを願っています。



但馬元気村サミット …小規模集落元気村プロジェクト…

平成20年、兵庫県が提唱した、小規模集落元気作戦に当初但馬では8集落が指定された（現在は19集落）ことを受けて、21年4月の第5期夢テーブル委員会の発足と同時に「小規模集落元気村プロジェクト」のグループを立ち上げました。その名の如くグループ員も少数でしたが、各方面のご支援により活動を致しました。

中でも小規模集落の現状、取組、課題、今後の夢などをお互いに共有することを目的に、但馬長寿の郷ふるさと庵において、「第1回但馬元気村サミット」を開催しそれぞれの代表者等に参集いただき、ざっくばらんにお話をいただきました。また翌年には2回目のサミットを同所で開催。サポーターの方々の意見などもお聞きし、村の抱える課題や夢を但馬全体の抱える課題として多くの方々に知っていただいたと思います。

この2回のサミットの報告として「但馬元気村カタログ」を編集し今回の夢テーブル元気村プロジェクトの終

小規模集落元気村プロジェクト リーダー 森 弘之

了とさせていただきます。事務局をはじめ多くの方々にご協力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。



2年間を振り返って

始めに、大した活動ができなかったことにお詫びします。

唯、当グループの活動範囲は余りにも大きく但馬一円に網の目のごとく関係ができたことは大きな収穫と考えております。これからの活動の仕方は、インターネットを利用し、山陰海岸国立公園、ジオパークの観光を全面に出し、但馬の魅力を全国に発信することです。それに対する問い合わせがあれば、上記ネットワークを通じて丁寧に対応することだと思います。同時に、縁あって但馬に住み着いた方々を大事に扱いましょう。最後は但馬の自然、人間性に行き着くと思います。今後ともこの活動に対して私は、縁の下での力持ち的存在として全面的に協力させていただきますので、使ってやってください。

夢ある田舎暮らし応援隊 リーダー 増田 征夫

グループ及び関係者の皆様、県民局の皆様ありがとうございました。

但馬万歳！！



第5期のゆめ防災福祉グループ活動報告

ゆめ防災福祉グループ リーダー 小島 義明

第5期夢テーブル委員会の初回会議でどのテーマに所属するか迷ったが、平成16年の台風23号の印象が強くこのグループに所属することに。グループメンバーは当初9名であり、福祉・防災・消防・国際感覚・カメラ・IT関係とそれぞれの分野で超専門的な知識の集団に恵まれていた。

1年目の活動は一般福祉の研修が主体で、車椅子の体験や身体障害者の日常生活用品等の研修、NPO法人「ゆめ風基金」の専務理事を招いての研修会を実施。さらに、毎月会議を開き2年目に開催する講演会の内容とアンケート内容の検討を繰り返した。

2年目には、福祉講演会の開催。講師を交えて講演会準備に取りかかった。問題は、講演参加への呼びかけとその方法であったが、アンケートを通じ、但馬全区で900余りとなる各区長に呼びかけることとなった。

アンケートは配布・回収方法が大きな問題であったが、但馬区長会、各市町の区長会の承認を得て実施。一部では反対的な意見も出たが、それだけにやりがいもあり、結果として回収率は高かった。

広報では、ケーブルテレビでの告知、新聞、各市町広報誌への掲載、スーパーなど人のよく集まる場所へのポスター掲示などを行ったが、これにより住民への但馬夢テーブル活動の周知にも効果があったように感じている。

講演会への参加者は、予定していた以上の入り

で200名以上と大成功であったと思う。終了後の参加者の数名から聞いて良かったとの評価を得て、地域への貢献もできたものと確信している。また、国会議員・県議員・3市2町長からの激励があったことは、メンバー一同の励みにもなった。

3年目は、アンケートの分析・報告事業に絞って実施。予想以上に時間を要したが、各市町の代表区長から但馬全区長に渡り、全住民に伝達される予定であり、効果を発揮することを望むものである。

この活動に関して、多くの方々からの助言や協力があり、関わっていただいた皆様のおかげと感謝しています。本当にありがとうございました。



第5期の活動を振り返って

第5期の次世代ネットグループでは、「但馬で暮らす若者が楽しく暮らせる為には」をテーマに活動してきました。中心となった活動は「TSUBOMI本舗」。プロ並みのスキルを持ちながら発揮する場が無い方に発表の場を提供したい、またそういった方とそのファンとの交流を

次世代ネットグループ リーダー 花房 靖裕

軸に但馬を盛り上げていきたいとの思いで始まったクリエイターズマーケットです。豊岡、カバンストリート内で2度行ったこのショップは、いわゆるフリマや祭りのようにただ物を売って儲けるだけではなく、起業していくための考え方、お客様・出店者同士の交流、商店街の空き店舗の活用、こういった切り口で行ってきました。

小さな店舗で行ったイベントにも関わらず、のべ4000人を超える来場者に出店者も十分な手ごたえを感じていただきました。その後はこの経験を活かし、出店者の方やイベントを主催される方々へのマッチング、イベントへのノウハウの提供、といった後方支援を行い、結果的にお手伝いさせていただいたイベントは1年間で30以上にも上りました。楽しいことは自分たちで作る、そして作れる！但馬にそんな一石が投げられたのではないかと考えています。このツボミから始まった想いは、大きく花開いていくものと信じています。そして多くの素敵な方々との出会いに感謝！



パープルネットの活動～地域のみなさんを元気づけるために～

但馬パープルネット リーダー 太田 吉春

「今日は楽しかった。」

「折り紙で花が出来ました。孫にやると喜ぶます。楽しみです。」

そうです私たちの活動は、但馬のあちこちに出向き、その地域の方々に、一日を楽しんでもらう、喜びを届けて回っています。地域の方々が、また、親や子どもたちが、ギターの伴奏で唱歌や演歌それに民謡を歌ったり、折り紙を折ったり、工作したり、子どもたちの集まりで絵本を読み聞かせたり。それがパープルネットの活動なのです。

活動のねらいは、地域で引きこもりがちになる高齢者の方々に再び地域に結びつけるために、また、この但馬の地域を担ってくれる次の世代の子どもたちに伝統文化やこの地域の良さや知恵を知らせるために、さらには、但馬の地域内の多世代交流の機会や活性化のために、自分たちが持っている特技を生かしてイベントや集まりを計画して実施することです。これをきっかけに、地域コミュニティが再び元気になってくれることを願ってやみません。

この1月28日(日)には、午後1時より、佐津地区公民館でお年寄りに集まっていたいただき、「スキー」などの冬

の季節の歌を歌ったり、折り紙で、花と花瓶を作ったり、たじまのうたまつり実行委員会の沖野さんを招き、共に懐かしい歌を数十曲大合唱しました。集まって来られた皆さんは、「楽しかった。命の洗濯が出来た。良かった」と言って、私たちと熱い握手を交わして、帰っていかれた。これからも地域のみなさんを元気づける活動が続けていければと思っています。



第5期の活動を振り返って

但馬の自慢話発信隊 リーダー 浮田 喜弘

思い起こせば3年前「地域活性化の一助になりたい！」と、我々が住むこの但馬地域が誇れる魅力を再発見し、但馬内外に発信することによって但馬を盛り上げていこう！という思いのもと集まり、スタートしたのが但馬の自慢話発信隊でした。

1年目は、山陰海岸ジオパークを盛り上げるべく「たじまジオ写真展～見ようよ！知ろうよ！応援しようよ！山陰海岸ジオパーク～」を開催しました。玄さんも応援に駆けつけ、また、テレビ取材も受け、たくさんの方で賑わいました。その後、山陰海岸ジオパークは、世界ジオパークネットワークに加盟認定されました。我々にとっても大変うれしいニュースでした。

2年目以降は、数ある但馬の自慢(財産)の中からお菓子の神様「田道間守命(たじまもりのみこと)」に着目し、「日本のお菓子のふるさと但馬」を発信していきました。お菓子のまち但馬・豊岡のイメージキャラクター「たちばなくん」の缶バッジも完成しました。但馬自慢発信誌「TAJIMAN(たじまん)」Vol.1スイーツ編というフリーペーパーも創刊しました。特に「TAJIMAN(たじまん)」

は、新聞やFMジャングルでも取り上げられ、多くの県民の方へ広める事が出来たのではとっております。

この3年間の貴重な経験を、はばたく但馬、確かな未来のために、但馬を更に盛り上げるために活かしていきたいと思っています。



「但馬夢シナリオ」を公表しました!

但馬の地域づくりの大きな夢＝但馬地域ビジョンでは、地域の皆様の小さな夢をより多くの方が共有・共感し、少しでも多くの夢が具体化することで、大きな地域の夢「あしたのふるさと但馬」が形作られていくと考えています。

そこで、平成23年10月から12月にかけて、但馬に住む・関わるいろいろな方が但馬で描く夢を「但馬夢シナリオ」として募集しました。


但馬内外の48の団体・個人から応募のあった「但馬夢シナリオ」については、より多くの方々と共有するため、下記ホームページ上で公表しています。

少しでも多くの「但馬夢シナリオ」が実現に向けて動き出すよう、一人でも多くの方に但馬で描かれた夢のシナリオをご覧いただきたいと思ひます。

また、今後、第2期、第3期と募集を重ね、地域の様々な主体による取組を推進していきたいと考えています。

○「但馬夢シナリオ」掲載ホームページURL

<http://web.pref.hyogo.lg.jp/tjk02/sinario/index.html>

※但馬県民局トップページのこのバナー  をクリックしていただいても「但馬夢シナリオ」のページに移動します。